

◆家庭教育支援フォーラム◆

村山地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 テーマ 「子どもを育てる大人の個性～あなただからできる支援がある～」
- 2 期日・会場 令和4年5月10日(火) 村山総合支庁西村山地域振興局講堂
- 3 対象者 山形県家庭教育アドバイザー、市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者、各小中学校教職員、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定こども園・保育所職員、一般等(参加者22名)
- 4 内容 (1) 事例提供：①「音楽による家庭教育支援」
二瓶 明美 氏(県家庭教育アドバイザー)
②「読育による家庭教育支援」
渡邊 裕子 氏(県家庭教育アドバイザー)
③「食育による家庭教育支援」
矢口 友理 氏(県家庭教育アドバイザー)
(2) グループワーク：①事例提供を受けて
②私たちに何ができるか～自分の立場で、立場をこえて～
ファシリテーター：村山 恵子 氏(県家庭教育アドバイザー)



- 5 感染防止の工夫 ・体温測定 ・手指消毒 ・換気 ・参加者間の距離の確保
・開催時間の短縮 等
- 6 参加者のアンケートから(記述抜粋)
 - 子育て支援に対して、3つのアプローチから聞くことができ、贅沢な学びの場となりました。マタニティ期間の音の聞こえ方、音楽を通して心と身体が成長することを知ることができて勉強になりました。また大人に向けた絵本という考え方も新しかったです。食育では補食のタイミングの重要性や孤食、お手伝いが与える影響を具体的に知ることができてよかったです。
 - 自分自身が生き生きと生きていくことが、未来ある子供たちに何らかの支援となっているということに気づきました。
 - 様々な業種の方とお話することができ、いい機会になりました。それぞれの講師の先生方のお話を聞き、実践できる場所で今後活かしていきたいと思いました。
 - 家庭教育アドバイザーの先生方のお話を実際に聞くことができ、とても参考になりました。ぜひもっと多くの方に聞いて欲しいので、そのような機会を設けていきたいと感じました。
 - 仕事においても私生活においても、3つの講座すべて、とても勉強になりました。もう少し長く聞きたいなとも思いましたが、短い時間に大切な話を聞くことができ、贅沢なフォーラムでした。

村山地区「家庭教育支援フォーラム」②（放課後子ども総合プラン指導者研修会②を兼ねる）

- 1 テーマ 「『気になる』子どもの理解と保護者対応」
- 2 期日・会場 令和4年10月7日（金）Zoomアプリを使ったオンライン開催
※当日会場：村山総合支庁（村山保健所）
- 3 対象者 山形県家庭教育アドバイザー、市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者、各小中学校教職員、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定こども園・保育所職員、市町放課後子ども教室担当者、地域学校協働活動推進員、市町放課後児童クラブ担当者、放課後児童クラブ関係者（学童保育指導員、設置員、運営委員）等（参加者559名のうち家庭教育支援関係者3名）
- 4 内容 講話（90分）
講師：本郷 一夫 氏（東北大学名誉教授 AFL 発達支援研究所代表）



- I 「気になる」子どもの特徴
- II 発達障害
- III 「気になる」子どもの理解と対応
—「落ち着きのなさ」への対応—
- IV 子どもが親に及ぼす影響
- V 保護者対応と支援の方向性

- 5 感染防止の工夫 オンラインでの開催
- 6 参加者のアンケートから（記述抜粋）
 - 教育相談に関わって、今まで学んできたことを改めてまとめて確認できたのでよかったです。本郷先生のお話や資料もわかりやすく、聞きやすかったです。また、質問などを通して、幼稚園や学童クラブでの子供の様子や先生方の困り感を知ることができて参考になりました。（家庭教育支援関係者）
 - 内容に関しては知っていることが多かったのですが、研究結果を踏まえて、さらにそれをわかりやすくお話していただき、理解しやすかったです。実態に関しても、その通りだと納得のいくお話で、説得力がありました。立場上、支援者や保護者にお話する機会が多いので、大変参考になりました。（家庭教育支援関係者）
 - 子供が親に及ぼす影響、保護者対応と支援の方向性について大変勉強になりました。家族全体の機能が子供の発達に影響しているということを頭に置いて、支援や保護者対応をすすめたいと思います。（放課後子ども教室関係者）
 - 子供の具体的な姿が散りばめられていて、頷きながらお聞きすることができました。ちいさい時の子供の問題行動が、その後の母親の否定的愛着に影響を及ぼすというのが新しい視点でした。（放課後子ども教室関係者）
 - 気になる子供の対応もそれぞれ違うので原因を理解しないと難しい点も多かったです。気になる子供の行動特徴5つと保護者支援の10原則のお話も聞けたので参考にしていきたいと思いました。（放課後児童クラブ関係者）
 - 常にこの分野は刻々と変わっていくので、新しい情報を得るということはとても重要です。日々保育に携わる者として、アップデートしていかなければならないので、毎年開催していただくとありがたいです。（放課後児童クラブ関係者）

最上地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和4年6月4日(土) 新庄市エコロジーガーデン
- 2 参加対象 市町村教育委員会・福祉主管課職員、地区PTA協議会母親委員、小中義務教育学校教員、幼稚園教諭、保育士、子育て支援者等
41名

3 内 容

(1)講演 演題「今こそ、子どもに自然体験を」

講師 斎藤秀二 氏(山形県家庭教育アドバイザー)

【要旨】

- 子どもたちは、大変な環境の中にいる。
 - ・いじめが多発 ・不登校が全国で最多(19万人)・ネット依存
 - ・小一プロブレム・中一問題(ギャップ)・高一ギャップ(クライシス)
- テレビ・ゲームの弊害
 - ・テレビ症候群(数秒間以上注意を持続することができない・落ち着きがなく、じっと座ってられない・衝動的な行動を抑えることができないなど)
- 生活習慣の乱れが、自律神経の乱れを引き起こす。
 - ・イライラしやすい ・集中力の欠如 ・対人関係の問題 など
- できるだけ偏食のない子に 食→人を良くする 心を整える
 - ・家庭の中で偏食を治すのは難しい
 - ・料理と栽培と空腹体験を
 - ・自分の家以外で食事する体験を→祖父母や親戚の家・社会教育施設事業・通学合宿など
 - ・お父さんが料理をする姿を子どもに見せる
- 自然体験・長期キャンプ・通学合宿
 - ・小一プロブレム・中一問題・高一クライシスに負けない強い精神力

(2)感想交流(グループワーク)

【講演の様子】



【グループ演習の様子】



4 感染防止の工夫

- ・会場参加、リモート参加のどちらでも選ぶことができるようにした。

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 子どもに考えさせることの大切さを改めて感じました。親の考え、教師の考えはあるが、当の子どもはどう感じているのか、そこを大事にして対応していかななくてはと気づかされました。
- 空腹体験も大事なことだったのが意外でした。
- 転ばないように、傷つかないように配慮しすぎていたような気がします。転ばないように気遣うのではなく、転んだ時の力をつけるための子育ても考えていかなければならないと思いました。

最上地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和4年9月5日(月) 最上総合支庁講堂(オンライン開催)
- 2 参加対象 市町村教育委員会・福祉主管課職員、地区PTA協議会母親委員、小中義務教育学校教員、幼稚園教諭、保育士、子育て支援者等
28名

3 内 容

- (1) 講演 演題「地域に求められている家庭教育支援とは～家庭教育支援チームの好事例から学ぶ～」

講師 土屋 常義 氏(山形県家庭教育アドバイザー)

事例提供・シンポジスト 村山 恵子 氏(山形県家庭教育アドバイザー)

事例提供・シンポジスト 佐藤 成美 氏(山形県家庭教育アドバイザー)

シンポジスト 佐藤 陽介社会教育主査(山形県教育庁生涯教育・学習振興課)

【要旨】

- 家庭教育支援チームの文科大臣表彰受賞歴のある、「NPO 法人クリエイトひがしね」と、「アベルんち」の2つの団体から、日頃の活動についての事例提供をしていただいた。
- 県の家庭教育支援事業について説明をし、家庭教育支援の団体やサークルの活動が、県の事業とどのように結びついているかを説明した。
- 土屋氏によるまとめと講話
 - ・現代の子どもたちの実情について→自尊感情が低い
周囲の大人の関わりが重要。親の対応を変え、子どもとともに育ち合う。
 - ・原体験(自然体験)の大切さ。「体験」は、「自信」を育み、さらに「学ぶ意欲」を高め、深い学びに繋がっていく。

- (2) 感想交流・情報交換



4 感染防止の工夫

- ・感染が拡大している時期だったため、オンラインでの参加を基本とした。

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 土屋先生の講演にあった、スマホになりたい子ども、木肌を気持ち悪いと思う子どもたちを考えながらも、呪いの言葉ではなく、魔法の言葉を紡いでいきます。
- まさに好事例と言える2つの事例をお聞きできました。こういった事例が県内にどんどん普及して欲しいと思いました。
- 情報交換の時間も充実し、時間が足りないほどでした。初めて会う人ともこうして思いを一つにできることは、喜ばしく思いました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和4年9月15日(木) 置賜総合支庁西置賜振興局 講堂
(オンラインと参集のハイブリット開催)
- 2 参加対象 家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、小学校関係者、子育て支援担当者
(参加者49名)
- 3 内容
講演・演習「怒りの感情と向き合うアンガーマネジメント
～コミュニケーション編～」
講師 佐藤 マサル氏 (スマイルよこて代表)

- ・叱る事自体は悪い事ではない。
- ・長期的に「自分も相手も健全でいられるかどうか。」
→ストレス発散のために怒ったり叱ったりしてはいけない。
- ・怒りとは?→①感情表現の一つである。②身を守るための感情(防衛感情)
- ・怒っていいのが「アンガーマネジメント」
※アンガー=怒り、マネジメント=後悔しない事。怒る必要があることは上手に怒り、怒る必要のない事は怒らない。
- ・私たちを怒らせている正体は、理想と現実のギャップである。目の前で裏切られた時怒りが生まれる。「こうあるべき」の「べき」が着火剤。
- ・上手な怒り方・叱り方
→①怒る・叱る基準が明確であること。②リクエスト(私の気持ち)が具体的に明確であること。③妥当な表現、態度、言葉遣いであること。



4 感染防止の工夫

- ・Web会議「Zoom」を利用したオンラインと参集のハイブリットで研修会を実施した。
- ・参集者…入り口での手指消毒、マスクの着用、座席の距離

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 怒る事、叱る事が全て悪いわけではなく、必要に応じて上手に怒る・叱る事が大事だということに納得しました。
- 日頃の自分の子どもとの関わりを振り返り「こうしてみよう」という明確なビジョンが見えて前向きになりました。うまくいくかわかりませんが、トレーニングなどを取り入れ、実践していきたいです。
- 自分の理想・欲求・願望(怒る基準)をしっかりと伝えていたのか?というところを強く自分に問いながら、先生のお話を聞いていました。今後、子どもたちと関わっていく仕事の中で活かしていこうと思いました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 期日・会場 令和4年12月9日(金)置賜総合支庁西置賜振興局 会議室(オンライン開催)

2 参加対象 家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、中学校関係者、幼稚園・保育園・こども園関係者、読み聞かせ代表者、コミュニティセンター関係者、NPO法人(学童保育)関係者、保護者等
(参加者30名)

3 内容

講演「子どもは自らの力で心身ともに成長する力がある
～モンテッソーリ教育から学ぶ大人の関わり方～」
講師 山口 礎 氏(蔵王めぐみこども園 園長)



- ・子どもは、自分を成長させる力(自己教育力)をもっており、大人はその欲求を受け止め、自由を保障することによって、子どもの自発的な活動(遊び)を支援する存在でなければならない。
- ・楽しい環境でこそ育つ脳
- ・子どもが自己教育力を発揮できるように、大人が「発達の段階」をしっかりと知ることが大事である。
- ・人的環境(大人の関わり)と物的環境(教具類)
→「人的環境」は、子どもを全面的に受容し、子どもの成長の方向性を示す役割を果たす。また、子どもが持って生まれた自己教育力を「物的環境」に注げるように、子どもと物的環境との橋渡しをする役割がある。
- ・まとめ
 - ①子どもは「自然の力」により成長する。
 - ②「自己教育力」は脳が発達段階に合わせて変化していく。
 - ③自分でできる環境をつくるだけで、子どもは自ら育つ。
 - ④好奇心は本能。
 - ⑤大人は子どもの自己教育力を引き出せる環境を整える。
 - ⑥大人は、好奇心を目的に変え、確かなものにできるように援助する。
 - ⑦一人ひとりを観察し、その子にとっての幸せを大人が考える。

4 感染防止の工夫

・Web会議「Zoom」を利用したオンラインで研修会を実施した。

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 脳の仕組みなど、医学的な面から発達を学ぶことができました。
- 子どもの好奇心を尊重し、自由にのびのびと過ごすことが子どもの成長につながっていくこと、そして子どもを見守ることの大切さを改めて考えることができました。
- 「子どもはできない」のではなく「やり方がわからないだけ」このことを知るだけで支援者は子どもたちにどのような声かけをしたらよいのか気づくと思います。
- 少子高齢化が進む中、一人の子どもに関わる大人の数が多くなっていると思います。親世代、祖父母世代、または地域の大人が望む子どもたちへの期待がそれぞれ違うことで子どもたちが生きづらさを感じないように関わってほしいなと感じました。

庄内地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和4年6月30日(木)・三川町子育て交流施設テオトル
- 2 参加対象 保育士、幼稚園・小中学校教諭、養護教諭、社会教育関係職員、家庭教育アドバイザー、市町家庭教育担当者等（参加者61名）
- 3 内 容
 - (1) テーマ：「子どもの育ちに関わる大人の役割」
 - (2) 講 師： 鈴木 聡 氏（東京学芸大学 副学長）

1. コロナ禍の中の子どもたち
2. 体力と子どもの発達
3. 遊びと運動
4. 大人の役割



4 感染防止の工夫

- ・講師はオンラインにて参加
- ・参加者は受付時に検温・手指消毒、マスク着用の徹底

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 子どもの育ちに関わる大人の役割を、運動や遊びの視点から考える切り口はとても新鮮でした。昔と今の子ども社会の比較や体力観の変遷など、時間軸に沿った分析は斬新で、とても興味深く感じました。
- 今の子どもを取り巻く環境を考えることで、子どもを多角的に見ることができました。マイナス面だけでなく、プラス面を考えることも大切だと思いました。次は、家庭で親が子どもにどんな支援や声かけをしたらいいのか、より良い子どもへの支援のために、その親へのアドバイスをどのように行っていけばいいのかを具体的に知りたいです。
- 運動や遊びの中に、子どもの成長や人生に不可欠な要素が含まれているという視点は、社会教育に携わる者として非常に参考になりました。どうしても教育的な部分や経験の蓄積の部分ばかりに目を向けがちでしたが、遊びの面こそ充実させてあげるべきなのかもしれません。勉強になりました。



庄内地区「家庭教育支援フォーラム」②

1 期日・会場 令和4年9月7日(水)・三川町子育て交流施設テオトル

2 参加対象 保育士、幼稚園・小中学校教諭、養護教諭、社会教育関係職員、
家庭教育アドバイザー、市町家庭教育担当者等（参加者53名）

3 内 容

- (1) テーマ：「子どものメディアのルールづくりと家族のかかわり方」
(2) 講 師： 増田 貴久 氏（精神保健福祉士）

1. ネットと子どもの現在
2. ネットメディアとうまくつきあえない原因は？
3. ルールに関する研究
4. 思春期のネット問題
5. ゲーム依存について



4 感染防止の工夫

- ・講師、参加者ともにオンラインにて開催

5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- 1人に1台のタブレット、子どもたちの吸収力のすごさに驚きます。その反面、のめりこみ度の高い子がいて心配しています。ネットとどう上手につき合っていくか、コントロールしていくか、これからの子どもたちに必要なこと、親のかかわり方など参考にしながら、がんばっていきたいと思いました。
- 「大人がネットのことを知らなすぎる」という意識を持つところから活動していくべきだと思いました。ただ「スマホはダメ！ネットは危ないから」で済まさず、スマホをうまく利用した勉強方法等、まずは大人が学び子どもにどう伝えるか考えるべきだと思います。



令和4年度 学校、家庭、地域の連携協議推進事業（家庭教育支援の推進）
庄内地区第2回家庭教育支援フォーラム

子どものメディアのルールづくりと家族のかかわり方

日時 9月7日(水) 14:00~16:00
方法 Web会議ツールZoomによるオンライン開催
(オンライン環境が整わない方は、三川町「テオトル」にて受講できます。)

講師 精神保健福祉士 公認心理士 増田 貴久 氏
NKK 認定社会福祉士 家庭教育アドバイザー

【問合せ・申込み】庄内教育事務所社会教育課(担当:後藤)
TEL 0235-68-1983 FAX 0235-66-3015

- ノーメディアをすすめていく時代ではなくメディアとどう付き合っていくかが大切になってきていると実感しました。そのためにも「ルールづくりの3か条」を保護者に伝え、ルールを守れた成功体験を積み重ねながら、将来的には自分で管理できるような見通しをもってメディアとのかかわりを大人と一緒に支えていくことを知らせていきたいと思いました。メディアとのかかわりで何を楽しんでいるのか、何を学び、何を求めているのかをキャッチして、否定的ではない家族のかかわりを支えていきたいと思います。